

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	リーディングス <i>Asian Families and Intimacies</i> 国際共同編集
代表者名	落合恵美子
事業概要 (600字程度)	<p>グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」(2008～2012年、拠点代表：落合恵美子)が「アジア地域における国際共同研究実施のための共通基盤形成」というミッションを掲げ、その第一層をなす「アジア各国のそれぞれの言語で出版・発表された重要業績の収集・翻訳・共有」のために開始したプロジェクト。アジアの研究者たちの多くは主に英語圏で出版された文献を通して隣国の社会について学ぶというのが常であったが、弊害の多い迂回したコミュニケーションを避け、隣人から直接に学ぶために企画されたのがこのプロジェクトである。アジアにおける重要概念である「家族」とそれに関係する「親密性」について、リーディングス「アジアの家族と親密性 (<i>Asian Families and Intimacies</i>)」の刊行を企画し、アジアの9社会(日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ、インド)を代表する研究者が構成する国際編集委員会のもと、各国の多くの若手研究者が参加して、収録論文の確定し、英訳および日本語訳を進めてきた。令和2年度にはその最終段階として、英語版刊行のための完成稿入稿、校正、著者情報の入稿等を行った。また日本語版のための訳稿の推敲も行った。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>2021年3月にSage社より、<i>Asian Families and Intimacies</i>を刊行した。 Asian Families and Intimacies SAGE Publications Ltd</p> <p>本書は、アジアの著者たちがアジアの家族と親密性について論じた重要かつ影響力のある論考を、全4巻に収めるコレクションである。編者の落合恵美子(京都大学教授)、パトリシア・ウベロイ(中国研究所所長)のもと、アジアの9社会の代表的研究者が国際編集委員会を構成し、すでに「古典」とみなされている有名論文から、新しい現象を扱う新しい学問領域を開拓する現代的な著作まで、アジア各国の著名な研究者や書き手による論考56章を、精選し収録した。収録論文の多くはアジアのさまざまな言語からはじめて英訳されたものであり、欧米圏のアジア研究とは一味違う、アジアに育ったアジア研究を直接に知ることができるように構成されている。</p> <p>本書は「家族イデオロギー」「家父長制」「セクシュアリティ」「結婚」「ケアレジーム」「ジェンダー」の全6部で構成されている。収録論文は、歴史と現代、理念と現実、異なる社会階層間の家族実践の違いなど、親密性の諸相にさまざまな角度から光を当てている。また、親密な関係のみでなく、私的領域と公的領域の相互作用を扱う章も多く含むのが特徴と言える。「中国化」「インド化」「イスラム化」「近代化」「グローバル化」という多様な文明化の交錯についても論じている。担当編者によって書き下ろされた各部のイントロダクションでは、収録論文で扱われるテーマを、より広い知的・社会的コンテクストに位置づけて再論している。</p> <p>並行して、日本語版出版のための準備も進め、有斐閣から3巻のシリーズを2021年夏に刊行することを目指して、作業を進めた。若手研究者による訳稿を、各社会についての専門的研究者がチェックし、さらに出版社が訳注の必要な箇所などを指摘し、各社会についての専門的研究者がそれを加筆する、といった入念な推敲作業を進めてきた。</p>

